

気候変動に対応するアフリカ農村世帯のレジリアンス

アフリカでは多くの農民が小規模で天水農業に依存しています。そのため、雨量の変動によって作物の収穫量も変動するため農民は脆弱です。小規模農民が環境変動に対してどのように対処しており、変動に対応するレジリアンスを高めるためにはどのような政策的支援が必要なのかを考えます。

気候変動と農業—トルコの水管理

IPCCでは将来的な温暖化により農業用水のひっ迫が懸念されています。灌漑プロジェクトでの将来的な水不足へ対応するために、どのような地域の作付体系が望まれるのかを考えます。豊かな食文化を持つトルコ南部のアダナ地方をケーススタディとして農業生産と水資源管理の問題を議論します。



梅津千恵子 教授

- 出張講義分野
環境と資源管理、気候変動と農業生産、途上国経済
- 研究分野のキーワード
農業の気候変動対応、地域のレジリアンス、管理組織
- 専門分野
環境資源経済学、農業経済学

※もっと詳しく
知りたい方は



<https://researchmap.jp/umetsuchieko>

大学ではこんなことを研究しています

主に発展途上国における気候変動等の環境変動へ対応する農村社会、農村世帯の農業生産や資源管理とレジリアンスの関係を中心に研究しています。SDGsではGoal 1「貧困をなくそう」、Goal 2「飢餓をゼロに」に特に関連が深いです。灌漑組合等の地域資源を管理する組織経営体にも興味があります。

先生からメッセージ

気候変動という身近で起きている地球規模の環境問題に関して、実際の現場ではどのような対応をせまられているのか、どのような支援が必要なのかを考えます。物事を見る視点として狭い範囲で起こっていることが、全体の中ではどのような位置づけになっているのか、俯瞰し比較する視点が重要です。地域（ローカル）と世界（グローバル）をつなぐ視点を持って、地球環境問題に対して自らが当事者となって行動するためには何が必要なのか一緒に考えましょう。

略歴 ハワイ大学農業資源経済学研究科博士課程修了。博士（農業資源経済学）。
青年海外協力隊、JICA、神戸大学、総合地球環境学研究所、長崎大学、京都大学を経て、2024年4月より現職。